

みんなで作る尼崎の森

— 尼崎の森中央緑地植栽計画 —



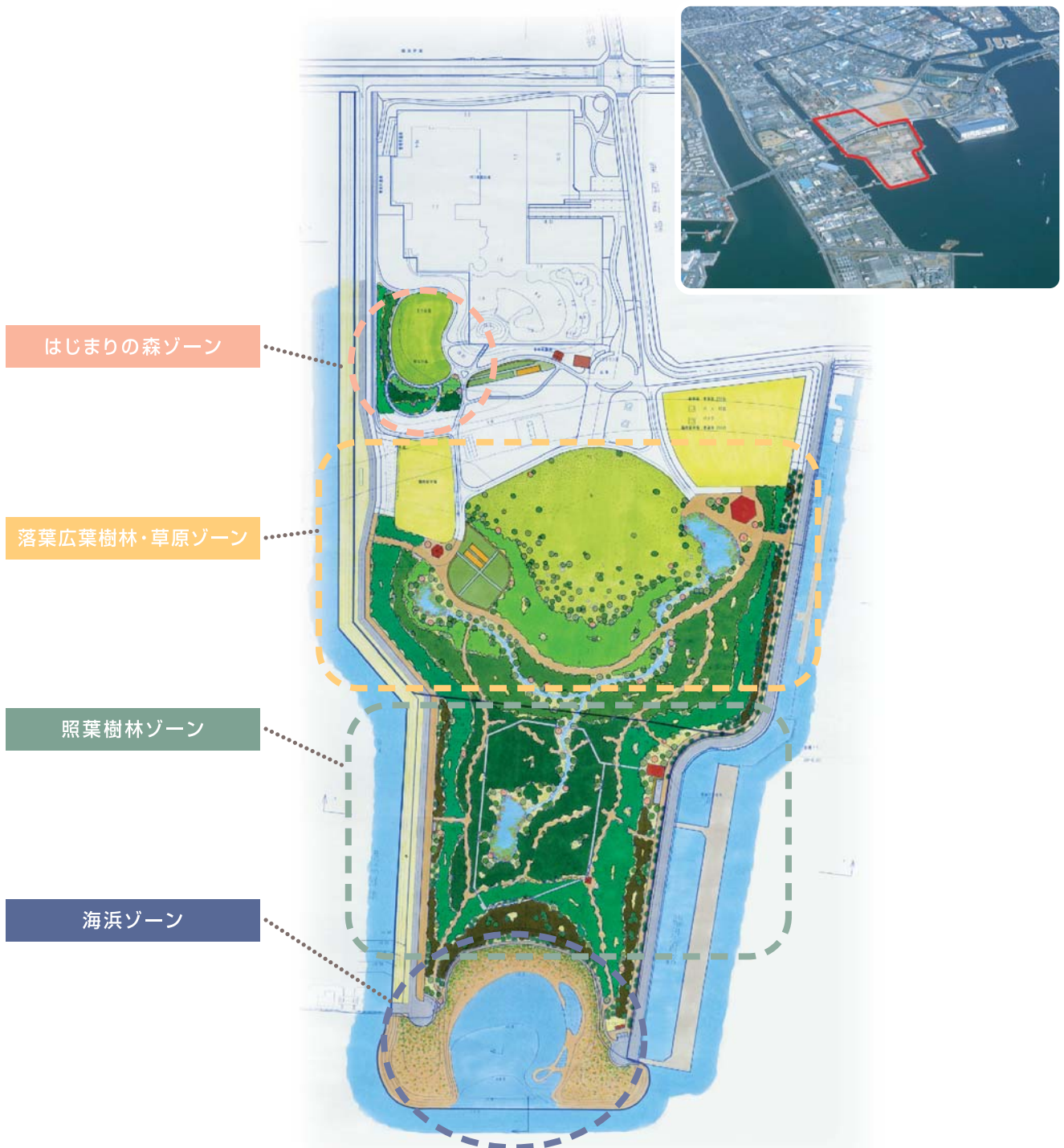
種子からはじめる・地域にこだわる・県民の参画と協働による森づくり



はじめに

「尼崎の森中央緑地」(約29ha)における森づくりは、尼崎21世紀森全体(約1000ha)の森づくりの羅針盤となる、先導的な役割を担っています。

兵庫県では、尼崎の森中央緑地植栽計画検討会(委員長:兵庫県立大学 服部保教授)における検討を踏まえ、生物多様性をキーワードとして中央緑地の森づくりを進めてゆくための植栽計画を策定しました。植栽計画では周辺地域に分布する良好な植生をモデルとして、中央緑地における目標植生の配置や導入種、植栽の方法などを定め、具体の森づくりにあたっては、地元産の種子を用いて苗木を育て、植栽するところから始めてゆく計画です。



キーワードは生物多様性

尼崎の森中央緑地は、海に面した埋め立て地に創出される新しい森です。この立地を活かして大阪臨海部の自然環境の再生を図ると共に、背後に広がる六甲山や北摂山系などの内陸部の生態系とネットワークする広域拠点となる森づくりを目指しています。

そして、中央緑地の森づくりにあたってはキーワードとなっているのが、「生物多様性」です。生物多様性とは、近年環境問題への関心が高まる中で、その共通のキーワードとして広く用いられるようになった言葉です。

■ 生物多様性の概念と尼崎の森中央緑地で目指す生物多様性

生物多様性の概念

中央緑地で目指す生物多様性

遺伝子の多様性

同じ種でも地域によって特徴が異なる様に、同じ植物の花でもさまざまに形が異なったりします。これらは多様な遺伝子の働きによります。



地域の固有性を大切にします

地元産の種子（遺伝子）を用いて苗を作ります。種子はたくさんの親木から採集します。

種の多様性

自然の森にはいろいろな種類の木があり、さまざまな種類の虫や鳥などがいます。



多様な種、多様な地形を導入します

いろいろな植物が生育できるよう地形に変化をつけ、さらに多くの種類の草木を導入します。またそれによって、多くの種類の昆虫や野鳥がやって来ることを期待します。

生態系の多様性

森林・草原・海辺など、いきものの暮らす環境（生態系）にもいろいろなタイプがあります。

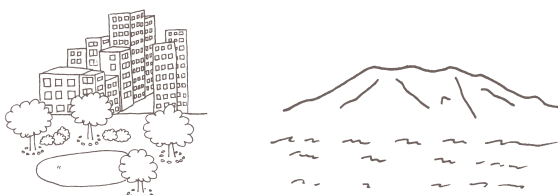


多様な生態系を取り入れます

森に限らず草原や湿地など多様な植生やそれに適した環境を取り入れます。

景観の多様性

景観は多様な生態系の組み合わせによって成り立っています。アルプスの景観と淡路島の景観が違うように、景観には地域によって異なります。



取り組みの成果を全国に発信します

中央緑地における森づくりの取り組みを全国に向けて発信することで、他地域における森づくりのお手本となり、それぞれの地域における固有の森づくりを推進します。

※ 齋谷(1998)を参考に作図



こんな森をモデルとします

森づくりにあたってはお手本となる具体的なモデルが必要です。モデルの設定にあたっては、中央緑地をとりまく武庫川や猪名川流域および六甲山系・北摂山系さらには大阪湾岸域を目標エリアとし、そこに現存する、もしくは現存したと考えられる良好な植生にモデルを求めるとします。■：目標モデル地域



1 川西市黒川：クヌギ林



2 有馬富士公園：コナラ林



3 畦畔：チガヤ草原(川西市黒川)



4 猪名寺廃寺跡：エノキ林



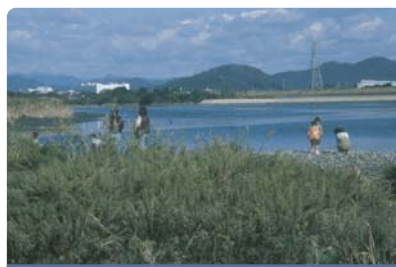
5 清荒神：コジイ林



6 須磨：ウバメガシ林／ヤマモモ林



8 慶野松原：クロマツ林



7 揖保川河口：塩沼地植生



9 洲本市厚浜など：海浜植生



森づくりのプラン

はじまりの森

中央緑地に導入する主な植生を、先行的・試験的に植栽し植栽イベントや森づくりのためのさまざまな調査を行います。



クロマツ群落

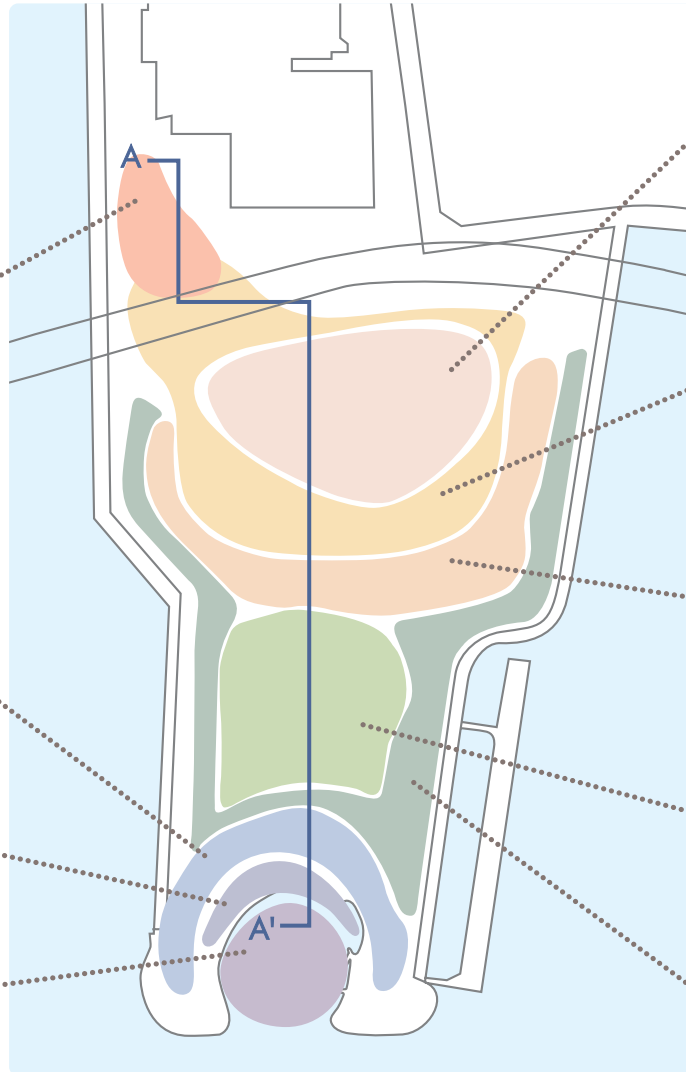
内陸側への防風林と同時に海岸部の風景を作ります。

ハマゴウ・チガヤ群落

海浜部では砂浜を再生し、海浜部の植生の再生を図ります。

シオクグ群落 ほか

部分的に河口の汽水域などに分布する塩沼地の植生の再生を試みます。



シバ群落・ススキネザサ群落 ・チガヤ・ヒメジョオン群落

広場として利用できるシバの草原を中心として、その周囲に生物多様性の高いチガヤ草原、ススキ草原を創出します。

コナラ・アベマキ群落 ・クヌギ群落

定期的な伐採で維持される雑木林で、様々な高さの林がモザイク状に混在した生物多様性の高い環境を目指します。

エノキ・ムクノキ群落

階層の発達した、生物多様性の高い森で、内陸側の植生に対して、防風林的な役割も果たします。

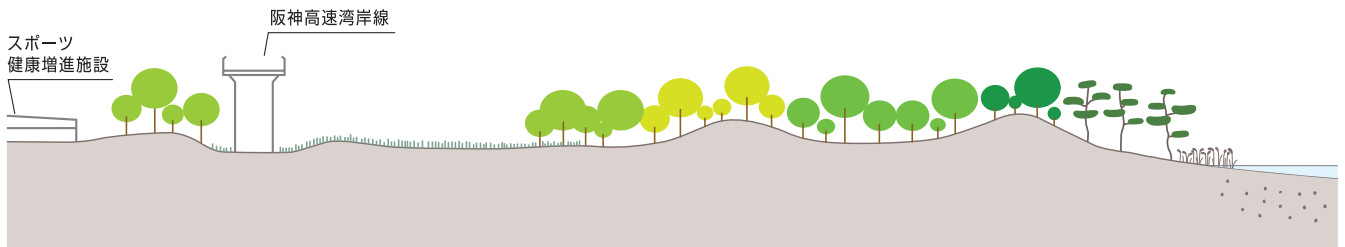
コジイ・カナメモチ群落

地域の気象条件下で安定的に持続する、発達した照葉樹林を目指します。

ウバメガシ・トベラ群落

潮風の防風林として緑地外周部の海沿いに導入します。

■ A—A' 断面図イメージ



先行的・試験的植栽	シバ群落・ススキネザサ群落・チガヤ・ヒメジョオン群落 コナラ・アベマキ群落・クヌギ群落 エノキ・ムクノキ群落	コジイ・カナメモチ群落 ウバメガシ・トベラ群落	クロマツ群落 ハマゴウ・チガヤ群落 シオクグ群落 ほか
はじまりの森ゾーン	落葉広葉樹林・草原ゾーン	照葉樹林ゾーン	海浜ゾーン

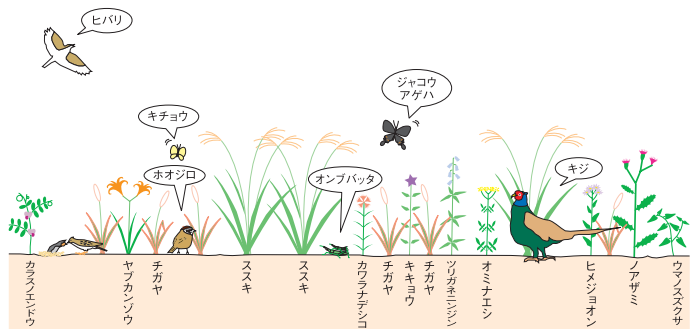


目標植生と目標動物

森づくりは単に木を育てるのではなく、様々な動物が暮らす「生態系」として成り立つ森を目指します。そのため、周辺から森にやってくる可能性のある動物で、見つけやすいもの、姿が美しいものなどを目標動物と定めて、森づくりの指標とします。

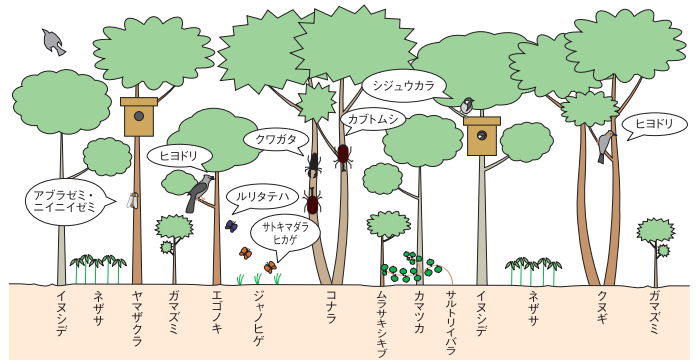
ススキ ネザサ群集 チガヤ ヒメジョオン 群集

ススキ-ネザサ群集・チガヤ-ヒメジョオン群集では、草原の代表的な野鳥のキジやヒバリ、草原の植物を食草とするオンパバッタやジャコウアゲハなどを目標とします。



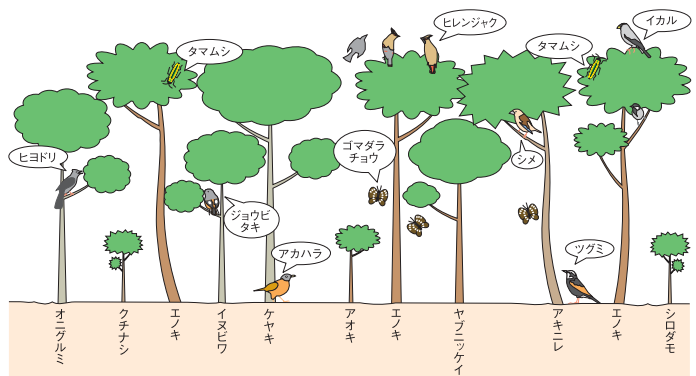
コナラ アベマキ 群集

コナラ-アベマキ群集では、雑木林の昆虫では人気No.1のクワガタ類やカブトムシ、樹液に集まる蝶の仲間などを目標にします。また、森林性の野鳥のシジウカラが営巣することを将来の目標に掲げて、巣箱かけなども行います。



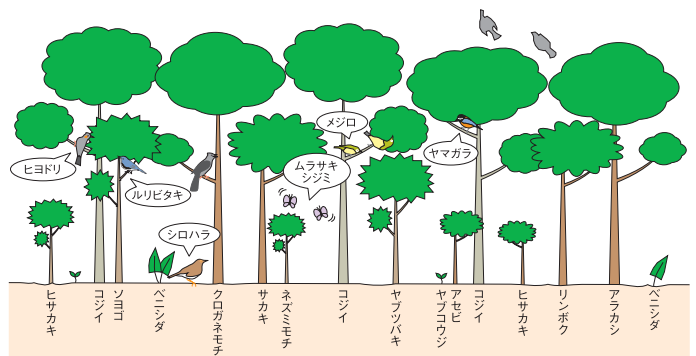
エノキ ムクノキ 群集

エノキ-ムクノキ群集では、木の実が大好きな野鳥のヒレンジャクやイカル、ジョウビタキ、エノキの葉を食草とするゴマダラチョウやタマムシなどを目標にします。



コジイ カナメモチ 群集

コジイ-カナメモチ群集では、照葉樹林を好む野鳥のヤマガラやメジロ、比較的暗い林床で虫などの食べ物を探すシロハラ、また、シイやカシの仲間を食草とする美しい蝶のムラサキシジミなどを目標にします。



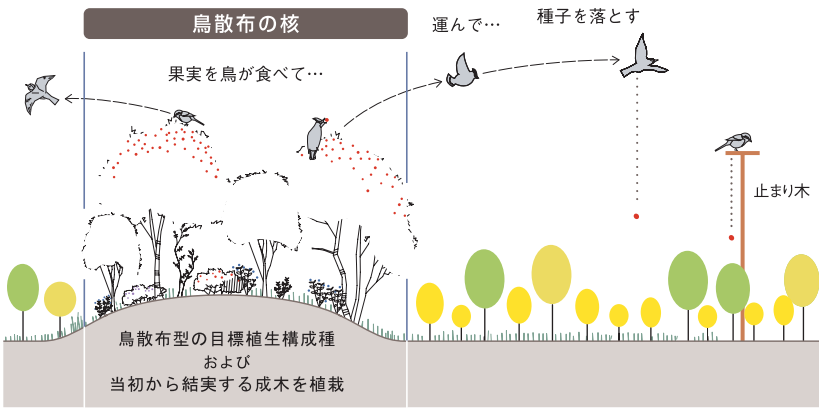


森づくりの新しい試み



■ 種子から始める森づくり

森づくりは生物多様性（遺伝子の多様性）への配慮から、一般に出回っている九州産などの植木を買ってきて植えるのではなく、目標とするエリアから種子を拾い、苗木を育ててから植栽します。苗木は現地環境に馴染ませながら時間をかけて大きく育ててゆきます。



■ 森づくりを野鳥がお手伝い

森づくりは苗木を植えて行いますが、多様な森林の構成種すべてを中央緑地の広大な敷地全体に植栽するのは大変です。そこで野鳥が好む様々な森林の要素を集中的に植栽した『鳥散布の核』を設け、そこから野鳥にタネを運んでもらう『鳥類散布型の緑化』を試みます。



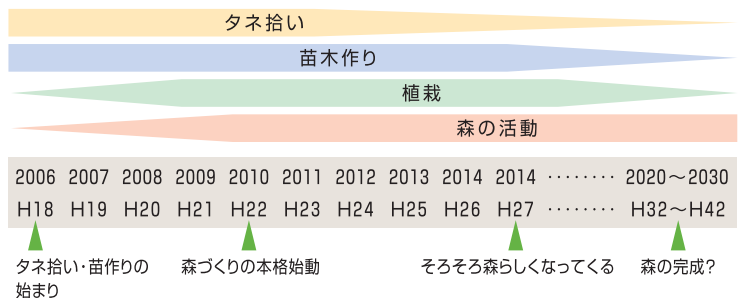
■ 私たちが育てる森 = アマフォレストの会の活動

私たち一人一人が目指す森の姿を共有しながら森を育ててゆきます。兵庫県ではこのための勉強会「アマフォレストの会」を植生や造園の専門家を招いて開催しており、また、森づくりに用いるタネ拾いや、苗作りなどの活動も始まっています。

※アマフォレスト…「アマ=尼崎の尼・アマチュアのアマ、フォレスト=森」を意味します



◆ 森づくりのスケジュール



発行日 2006年3月

発行 兵庫県阪神南県民局県土整備部西宮土木事務所
21世紀の森整備室
兵庫県県土整備部まちづくり局公園緑地課
兵庫県県土整備部土木局港湾課

監修 尼崎の森中央緑地植栽計画検討会
委員長 服部 保
兵庫県立大学 自然・環境科学研究所 教授
兵庫県立人と自然の博物館 自然環境再生研究部長

編集 (株)里と水辺研究所

イラスト 岡本亜伊

連絡先 兵庫県阪神南県民局西宮土木事務所 21世紀の森整備室
〒660-0892 尼崎市東難波町5-15-13
TEL : 06-4868-5125
FAX : 06-4868-5097
e-mail : 21c_nomori@pref.hyogo.jp